

平成24(2012)年3月20日(火)15時~16時半

蒲生上組光浄寺様彼岸会 & 永代経出講

本願文主文と唯除の御文と

Ver. 8

浄土真宗本願寺派布教使 堅田 玄宥

# 蒲生上組光浄寺様彼岸会&永代経出講法話構成

1. [蒲生上組光浄寺様彼岸会 & 永代経] 3月20日 14時からお勤め、御法話は14時55分から  
(ご法話第1席) 40分—中休み10分—(第2席) 30分

## 2. コンテンツ構想

1) 第18願文「主文」及び「唯除の御文」

### 第1席:本願文主文

3月第1号「お名号をお聞かせに与る一部始終」……………20分

4月第1号「略讃聞名と広讃聞名と」—ありありと聞くことと物語をきくことと…20分

第2席(第1案)お念仏の歌に聞く(なんまんだぶつの子守歌他)

断章3月第1号「廊下に響く子守歌」……………17分30秒

a)お東のご遠忌ソング誕生「なんまんだぶつの子守歌」…3分

b)お西のアニメしんらんさまの主題歌「きっとまた会えるね」

c)「のんのさま」と「聲名(となえませ)」

第2席(第2案)唯除の御文(親鸞聖人の二つのお知らせ:時間が許し当日のその場の空気によりて)

1月第3号「唯のお心\_ここに救いの鍵がある」 ……20分

a)悪人正機、b)宗祖/お同行の三哉、c)二度のお知らせ、

d)声について決定往生のおもひをなすべし…20分

e)いまいのちにめざめるとき(1~3番まで)…7分

2月第1号「唯除のお知らせ章」 (御文:落語説教) ……5分

# 第18願文主文御法話構成

## 1. ご讃題

正像末和讃 如来の作願をたずぬれば

(Ref『正像末和讃』38番 註釈版P606)

第18願文主文(願文の読み下し)

## 2. メイン構成

第1席:3月第1号「お名号をお聞かせに与る一部始終」

4月第1号「略讃聞名と広讃聞名と」

—ありありと聞くことと物語をきくことと—

第2席:断章2月第3号「廊下に響く子守歌」

## 3. ご讃題まとめ

「聲 名」

## ご讃題『正像末和讃』

- 如来の作願をたづぬれば
- 苦悩の有情をすてずして
- 回向を首としたまひて
- 大悲心をば成就せり

(Ref『浄土和讃』38番 註釈版P606)

# 忘れてはならない苦悩の存在

- 平成23年3月11日の大震災は大変な出来事でした。先般、知人が震災に遭われた地域をお訊ねしました。
- ご対応の被災地の方は、「(私達が被災した事実を)決して忘れないで欲しい。そして伝えて行って欲しい。」とおっしゃいました。
- 被災地の皆様からの痛切なメッセージです。
- これは、簡単なようで容易ならぬメッセージではないでしょうか。
- なぜなら、私には住職として、親鸞聖人のみ教えをしっかりと頂戴して決して忘れないことが容易ではない(易往而無人 = 浄土へは行き易くして、人なし)ことを身につまされて知らされる毎日があるからです。
- その上位概念は、衆生(私達)は、苦悩の存在だということではなかったでしょうか。
- 私達が苦悩の存在であるということは、阿弥陀如来の本願(仏願)がなぜ建てられたかの原点に当たります。
- そんな衆生はこのまま放っておけない。間違いなく救い取らずばおくまいとの如来様のご本願が建てられたからです。
- ご本願の中心は第十八願文です。
- これは、阿弥陀如来がお名号を聞かしめることによってお救い下さる願文であります。
- 第十八願成就文に聞其名号とあるからです。

# 聞其名号でお救いに与る秘密

- ・ 一体、どうしてお名号を聞かされることによって衆生はお救いに与るのでしょう、今日はまずその**根拠**をお訪ねしてみましょう。
- ・ まず人間界は、言葉で生きる世界だからです。
- ・ 言葉自体は、生かすも殺すも言葉次第ですが、選び抜かれた言葉によって、命は、永遠に生き続けることができるからです。
- ・ 選び抜かれた**真実の言葉**だけが**真実の世界**と**苦悩の世界**との交流を果たし得るからです。
- ・ **真実の言葉**は、人間の所行でできるものではありません。
- ・ 南無阿弥陀仏のお名号は、人間が拵えたものではなく、**真実の世界**から届けられた言葉だったからです。
- ・ 言葉が最も生き生きと伝えられるのは声になって喚び掛けられるときです。

Ref) 山本周五郎の『柳橋物語』では**ちゃん坊**が危篤になった時、**長屋のみんな**が井戸を覗き込みながら、「**ちゃん坊、ちゃん坊**」と呼んで向こうの世界に行きかける**ちゃん坊**を呼び戻そうとします。

このお話を**耳にするだけで胸が詰まりますね。**

**なぜでしょう。なぜだとお思いになりますか。**

それは、**ちゃん坊とは、私だったからではないでしょうか。**

# 聞其名号でお救いに与る秘密

それでは、呼び主は誰か、それはもう一つの課題になりますね。ここでは、少なくとも、声になって呼び掛けられる。私を呼んで下さる呼び声を耳にするだけで、衆生(私)は、助かる(救われる)ということがわかりますね。これを押えておきましょう。

実は、私にも一つの思い出があります。A地のM寺様に伝統のご法要にお参りした時、前坊守様から「Mちゃん」と呼び掛けられて私はハッとしました。その瞬間、私は、小学校六年生に戻って居たのです。どうしてそんなことが起るのでしょう。

これは、呼び声によって呼び覚まされたからではないでしょうか。呼び声を通して呼び主がわかり、私は呼び主に呼びさまされた私に還ったからではないでしょうか。

先日、NHKスペシャル「東京大空襲( )583枚の未公開写真」が放送されました。

その中に当時13歳だった男の子が、7歳の妹をB29から投下された爆弾で失ったお話がありました。

妹は、空襲があるというので早退した学校の昼食から持ち帰ったコッペパンを大事に抱えたまま飛び込んだ防空壕の中で、直撃した爆弾で被災し亡くなっていったのでした。コッペパンを食べる暇もなく、

鼻をブクブクしていたので、助かるかもしれないと大人が人工呼吸を施しましたが助かりませんでした。

当時13歳だった兄の眼には妹の最期の姿が目に焼き付いて離れません。

爾来、毎月の日には、欠かさずパンを買い求めてお仏壇に供えてお念仏していらっしゃるお兄さんです。

お兄さんは妹との別れを通して、永遠に生きる妹との出遇いを果たしていらっしゃるのではないのでしょうか。コッペパンを供物として捧げる人生は、妹との呼びつつ呼ばれ続ける人生ではなかったのでしょうか。

如来様は、このような衆生の本質を見通していらっしゃるのではないのでしょうか。

衆生(私)には、私に恵まれた切実な人間の絆を通してでなければ、如来様のお慈悲を感じ取ることとは容易ではない性癖があります。だから自身が切実な出来事にたまたま恵まれることがあったならば、そのとき私を喚んで下さる真の喚び主は、阿弥陀如来であると頂戴することができます。

# お名号とは

- お名号は、人間の拵えた言葉ではなく、真実の世界から届けられたお喚び声です。
- 「お正信偈」は、七字と九字のお名号から始まっています
- 帰命無量寿如来 *七字のお名号*

- 南無不可思議光(如来) *九字のお名号*

九字のお名号はお内佛様の向って左脇軸に掲げます

- 帰命尽十方無礙光如来 *十字のお名号*

十字のお名号はお内佛様の向って右脇軸に掲げます

- 南無阿弥陀仏 *六字のお名号*

親鸞聖人は、十字と九字のお名号を大切になさいました。

一方、蓮如上人は、六字のお名号を頻用されました。



# 聞其名号でお救いに与る秘密

実は、親鸞聖人は、お名号、南無阿弥陀仏は、本願招喚の勅命だとおっしゃいます。

「本願招喚の勅命」、これは、如来様が衆生を間違いなく救い取りたいとのご本願のお心から衆生(私)をよんで居て下さる御命令だということでもあります。

- ・ お名号が声になって聞こえて下さるとき、お六字という言葉を通して衆生(私)は、親様がいらっしゃるのだとはっとして目覚めることができます。
- ・ 親の喚び声によって、まどろんでいる子が喚び覚まされるからです。
- ・ 喚び覚まされれば衆生は震え感動し座り直すよりほかはありません。
- ・ 真実の親と子の間ならば、説明は要らず、端的な喚び声でそれと判るからです。
- ・ ここで「親」とは申すまでもなく阿弥陀如来であり、「子」とは衆生であります。

皆さん覚えていらっしゃいますか。「われらは仏の子供なり」という歌を衆生(私)は、仏の子供だったのです。

# お聞かせに与るのは名号讃嘆

- 第十八願成就文とそれに先立つ第十七願成就文によって、お聞かせに与るのは、名号讃嘆だということが判ります。諸仏如来の名号讃嘆です。
- これは、古来、**広讃**だと言われてきました。十方世界の諸仏如来が無量寿仏の威神功德の不可思議なるを讃嘆なさるその讃嘆を指しているからです。
- これは、仏願の生起本末の一部始終を仏説無量寿経に基づいてお聞かせに与ることになります。一部始終ですからお謂れを聞く、平たく言えば、**物語を聞く**ということになります。
- けれどもまた、親鸞聖人は、南無阿弥陀仏を称ふるは仏を誉めたてまつるになるとなりと仰せ下さいました。お念仏することが仏徳讃嘆になるとおっしゃったのです。
- それが可能になるのは、称名自体が如来回向の口業であり、口業は讃嘆だからです。
- だから、お念仏することは **略讃**と申します。称えれば直ちにお名号が聞こえて下さいます。だから、**略讃**とは何かといえ、私を喚び覚まそうとなさるお喚び声を**ありありと聞く**ということになります。
- 真実の親子の間では、説明は要らず、端的な呼び声で呼び覚まされるからです。
- 聞其名号とは、如来様が衆生(私)をお救い下さる一部始終の「**物語を聞くこと**」であり
- 真実の親が唯今ここで私を喚び覚まして居て下さるお喚び声を「**ありありと聞くこと**」だということになります。

# ありありとお聞かせに与ることと物語を聞くことと

- 教えがあり、教えに従って行ずる人がおり、証(お悟り)を開く人が居る。下記に示します通り、末法の時代に教行証が揃っているのが浄土真宗であります。
- 親鸞聖人が「信巻」を「行巻」から別開して、「教行証」の三法題から「教行信証」の四法題を導きだして下さった原点が見えるようではないかと窺うことであります。
- 仰せの通りにという浄土真宗の信心(信楽)と聞こえて下さる如来様の勅命をお聞かせに与る(聞)とは、聞即信の関係にあったのですから(Ref『一念多念証文』註釈版P678)
- 信と行とは決して離れて存在するものではない(行信不離)ことも成程と首肯できること  
記
- 「教え」とは、名号をお聞かせに与ることによってお救いに与ることであり、
- 「行」とは、仰せの通りに(実は、これが浄土真宗の「信心」を指します)、
- 南無阿弥陀仏と称えることでもあります。 **回向された口業を行ずる姿**
- **実際に、称えるというのでしょうか。 実践することが親鸞聖人のお勧め**
- 直ちに聞こえて下さる勅命を**ありありとお聞かせに与る(略讚聞名)**のであり、更には、
- 仏願の生起本末をお聞かせに与る**(物語を聞く)こと(広讚聞名)**になるのであります
- お聞かせに与ることは、信心(如来様の真心)を賜ることであり、それはその儘、「証」  
(= お悟りとは、お救いに与ること)だったからであります。

# 広讚と略讚についての考察 (布教使覚書)

- 広讚と 略讚とでは、略讚が必須だと考えられます。  
乃至十念は、仏願に誓われた行だからです。
- それ故、例えば、称えれば自力の懸念があるからといって、「 略讚が不要だ」と言ってしまったのでは、御本山のご常教のように信心獲得が觀念論の弊に陥りかねません。
- *ご常教とは、信心が先で念仏が後だ、衆生行位の行を認めない立場を申します。三業惑乱以降、200年も経つというのに、御本山教学ではこれが維持されており、したがってご常教と称するのです。安心論題は、このご常教に立脚しています。*
- お聴聞の習慣が消え行く現代社会では、ご常教では、社会からお念仏の声が消えてしまう、お念仏を通して如来様のお喚び声に**聞遇(もんぐう)する機会を閉ざしてしまう危険性がある**といわねばなりません。
- 衆生は今生では如来様のお姿には、お喚び声を通してお遇いさせて戴くのでしたからこれを大切にしなければならなかったからです。
- その反対に、「 広讚が不要だ」としてしまえば、一転して念仏が呪文に陥ってしまう危険性が無いとは申せません。
- 蓮如上人が盛んに「ただ口に南無阿弥陀仏と称えるだけではいけない」とおっしゃったのは、その弊を差し止める為だったと窺うことができます。
- ご法話は、仏徳讚歎だと承って布教使はお育てに与ってきました。
- その故は、御法話もまた、お釈迦様が阿弥陀如来の功德の不可思議なると讚嘆なされた名号讚嘆を受けているからです。
- それ故、広讚の中で、私は、必ず、略讚をお同行と共に頂戴することに致しております。
- お東の親鸞聖人750回大遠忌法要のイメージソング「なんまんだぶつの子守歌」は、**広讚・略讚が融合した優れた作品**だと頂戴することができます。

# 第十八願文の構造

- 第十八願文は、十方の衆生が間違いなく浄土に往生する因が誓われたご本願です。
- その構造をお訪ねしますと、「至心信楽欲生我国乃至十念」です。これを三心と称し、三心は、疑蓋無雑の信楽一心に納まります。
- 「乃至十念」とは、たとえ、わずか十遍でも念仏しておくれとの阿弥陀如来の願いを表しています。
- これは、浄土往生の「大行(だいぎょう)」を表しています。文法上は、衆生を浄土往生の主体とする動詞に当ります。
- 一方、「至心信楽欲生我国」は、その動詞を修飾する副詞に当たります。
- 「称える」という動詞を修飾する副詞ですから「称えぶり」を現わします。
- では、どのような称えぶりなのかと言え、**「阿弥陀如来から賜ったまことの心(至心)をよりどころに、そのお心のままにお任せして(信楽)、如来様の極楽浄土に生まれたいと思うて」と**なります。
- また、三心は十念の動詞に係る副詞ですから、その基本構造からして、**動詞と副詞の両者は決して離れて存在するものでない(行信不離)**ことが判ります。

# 第十八願文の構造

- これがなぜ、三心と呼ばれるようになったかといえは、自力の観法で表現される観經上品上生の三心(至誠心、深心、回向発願心)に対比して押えられたからにほかありません。
- その中心は、如来様のお心のままにお任せすると言う「信樂(しんぎょう)」に当たります。
- ここで一つの大きな疑問が湧いてまいります。
- それは、成就文ではその名号を聞かしめることによるお救いなのに、どうしてまた、願文では「聞我名号」ではなく「乃至十念」なのでしょう。
- これは、植諸徳本を誓われた第二十願文では、聞我名号とあるのとの対比で生れて来る疑問です。



# 乃至十念の仏意

- それは、聞其名号では、どのようにして名号をお聞かせに与るかの肝心かなめの具体的な衆生の相状が明らかではないからだと窺われます。
- なぜなら、「聞其名号」の「聞」という字は、聞こえてくるものが自然に耳に入るという字であって、こちらから耳を傾けてきくという主体の意識的な行動を表す字「聴」ではなかったからです。
- きこえてくるものが自然に耳に入るという相状のままでは、いつでもどこでも実現できるという風にはなりません。願文の一つの性格は衆生往生の願だったからです。衆生往生ですから、往生の主体は衆生であり、単なる自然現象を待ち受ける相状ではなく、いつでもどこでも衆生の行動として成立する必要があったからです。
- 十方の衆生に間違いなく名号を聞かしめる為にはどうすればよいか、如来様はお手許で南無阿弥陀仏と称えて御覧遊ばしました。すると聞こえるではありませんか。そのようにお手許で確認済の口の行い(これを口業と申します)を如来様は回向して下さるのです。だから、親鸞聖人は、行巻で、大行とは無礙光如来の名を称するなりと仰せ下さったのであります。
- 衆生は、ただ、南無阿弥陀仏と称えればよいのです。
- では、実際に称えさせて戴きましょう。称えれば、直ちに聞こえて下さったものがある筈です。何と聞こえて下さったでしょう。南無阿弥陀仏と聞こえて下さったのです。

# 乃至十念の仏意

- これがご本願で「乃至十念」と誓って下さった帰結であります。
- だから、このとき、聞こえて下さったお名号は、たった今し方お浄土を発して、わが両の耳を揺るがせ、わが胸底に届いて下さったお名号にほかありません。
- これは、お名号に姿を変えて衆生を救い取ろうとご本願をお建て遊ばしたそのご本願が完成したお姿ですから、南無阿弥陀仏そのものが阿弥陀如来そのお方でありました。衆生の胸に阿弥陀如来がお宿り下さった瞬間です。
- お浄土の主は阿弥陀如来であります。そのお浄土の広がりはどうかと申しますと、ここから先はお浄土ではないという際限がありません。ですから、お浄土から見ると言うとその働きは、この娑婆世界にも及んでいるということになります。ですので、お名号が聞こえて下さったその瞬間、お名号が凡夫の胸にお宿り下さり、同時にまた、凡夫は、お浄土の働きの中に包まれているということが出来ます。
- お浄土の主は阿弥陀如来でしたから、凡夫は如来様の袖に包まれているという風に頂戴することが出来ます。



# 聲名

1st Ver. Feb 15th 2012

- 親鸞聖人のご本典、証巻には、『論註』の御文「仏八種功德(ぶつはっしゅくどく)」が引用されており、その中心になるのが「聲名(しょうみょう)」であります。
- 阿弥陀如来は、お名号を聞かしめることによって衆生(私)をお救い下さるのであります(Ref『大経』第十八願成就文)。
- このとき問題となるものがあります。
- それは、どのようにすれば十方の衆生(私)にお名号を聞かしめることができるかということでもあります。
- 阿弥陀様は、実は、そのお手立て迄ご用意下さっていたのです(Ref『大経』第十八願文)
- それは、阿弥陀様のお手許で、これなら十方の衆生(私)に間違いなくお名号を聞かしめられると確認して下さった「佛の口業(くごう)」だったのです。阿弥陀様はその「佛の口業」を衆生(私)が行うべき行として回向して下さいます(Ref『行巻』六字釈)。
- 戦後すぐに、当用漢字ができて、「聲名」は、「声名」となりましたが、元の「聲名」には深いお心が秘められてあります。「聲名」の「聲」とは、(阿弥陀如来が)声に発せしめ、耳で聞き留めしめると読みとれる大切な字です。尚、「𠂔」は、字画の「となえ」とあります。だから衆生(私)は、お名号を声に出だして称えさせて戴くのです。

善導、法然両師が確定下さった口称念仏です。

# 聲名

1<sup>st</sup> Ver. Feb 15<sup>th</sup> 2012

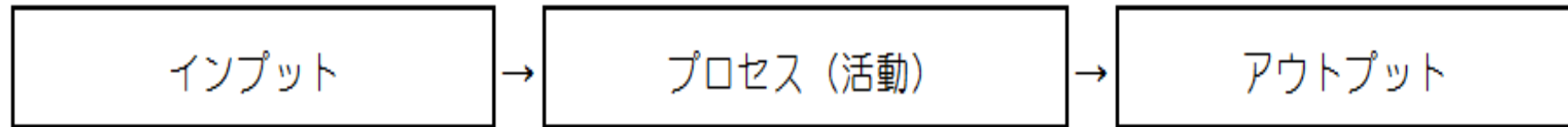
- 宗祖は、例えば、後善導の『五会法事讃』の御註釈でも「十方世界普流行」の「流行」とは、(十方の衆生(私)に)「**すすめ行ぜしめたまふなり**」と仰せであります(Ref『唯信鈔文意』註釈版聖典P700)。
- これが第十八願文は「**乃至十念**」のお心です。
- 果たして、南無阿弥陀仏と称えれば、直ちにわが「**耳**」に聞こえて下さいます。
- 如来様の思し召しに促され、お取り次ぎさせて戴き、左様でございますかとお名号を口に出して称えさせて戴くことによって「南無阿弥陀仏」とわが耳に聞こえて下さったのです。
- これは、たった今し方、お浄土から発して直々に届いて下さった如来様のお喚び声に他ありません。
- 「**ワレニマカセヨ**」とお喚び声となって届いて下さった南無阿弥陀仏に頭が垂れるとき衆生(私)はお救いに与ります。如来様との親子の関係性に目覚めさせて戴いた瞬間です。
- これを、古来、「**勅命(ちよくめい)の他に領解(りょうげ)なし**」と申すのであります。
- ここで、「左様でございますか」と頭が下がるのが**三心即一の信楽(信心)**ですから、浄土真宗の「**信心**」とは、**念仏往生のご本願に疑いがなくなる**ことでありました。合掌。

# 信心獲得の教行証はプロセスアプローチ

- このように見て参りますと、信心獲得の次第相状は、プロセスアプローチになります。
- 教えがインプットされ、念仏する行者の活動となり、その帰結が聞其名号の証となるのであります。
- この次第相状が阿弥陀如来の本願力廻向によって成就しているのだとすることができるのであります。

# 信心獲得次第相状

信心獲得次第相状は、仏教の「**教行証の構造**」に則り、ISOのプロセスアプローチそのものです。

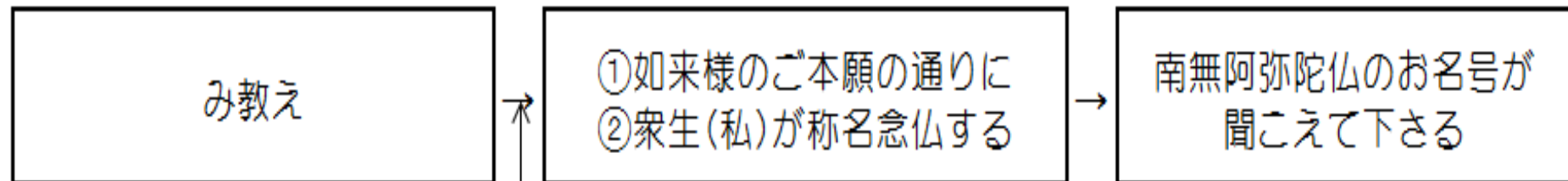


如来様の本願力は常に働いて下さいます。それ故、衆生（私）は、み教えに遇わせて戴き、賜った念仏行を行じるとき、名号（願力）を聞かせて戴けるのです。

教

行

証



御本山の聖典編纂のご努力があり、僧侶の研鑽と熱意があり、祖父母のお念仏の姿という土徳があつてみ教えが伝えられます。

↑  
仏回向の行が行ぜられるとき  
①②は不離「行信不離」の相状を保っています。

↑  
これを願力を聞くという聞くことは信心を頂戴したことを意味します。

# 念仏往生の法然聖人のみ教え

- 法然聖人は、次のようにおっしゃいました。
- 私は、私の心の善悪、自分が犯して来た罪の軽重におののくことはありません。
- 如来様が「お浄土に生れて来るんだよ」と願うて居て下さるので、如来様の仰せの通りにお浄土に生まれたいと思うて、南無阿弥陀仏と称えさして戴きます。
- すると「なんまんだぶつ」と聞こえて下さいますから聞こえて下さる声につけて、浄土往生間違いなし、大丈夫、大丈夫と頂戴すればよいんだよ」とお教え下さったことでもあります。

# 本願力廻向の親鸞聖人のみ教え

- 親鸞聖人は、次のようにおっしゃいました。
- 法然聖人のみ教えの本質は、如来様から本願力廻向して下さるお名号をお聞かせに戴いてお救いに与るみ教えです。
- 易しく申しますと、私のはからいをいれず、南無阿弥陀仏と称えておくれとの如来様の願いにお任せしてお念仏しましょうというみ教えなのです。
- ここで、如来様は、間違いなくお名号を聞かしめる為に、実はお名号を称える行為そのものを私に回向して下さるのです。
- お念仏自体が、如来様の回向によるのです。
- ですから御一緒にお念仏を称えましょう。

## 第2席(第1案)「お念仏の歌に聞く」御法話構成

### 1. ご讃題

#### 冠頭讃

弥陀の名号となへつつ 信心まことにうるひとは  
憶念の心つねにして 仏恩報ずるおもひあり

(Ref『浄土和讃』38番 註釈版P505)

### 2. メイン構成

3月第1号「廊下に響く子守歌」……………17分30秒

a)お東のご遠忌ソング「なんまんだぶつの子守歌」…3分

b)お西のアニメしんらんさまの主題歌「きっとまた会えるね

### 3. ご讃題まとめ

(節談)「唯除のお知らせ章」2月第1号……………5分

# ご讃題『浄土和讃』冠頭讃

- 弥陀の名号となへつつ

信心まことにうるひとは

憶念の心つねにして

仏恩報ずるおもひあり

(Ref『浄土和讃』冠頭讃 註釈版P555)



宗祖親鸞聖人750回御遠忌イメージソング(東本願寺)

## なむあみだぶつの子守歌

1. なんまんだぶつ、なんまんだぶつ

おじいちゃんのお念仏      お前は一人じゃないんだよ

しんらんさまがいなさるよ      いまもしみじみ想いだす

おじいちゃんの“子守歌”

2. なんまんだぶつ、なんまんだぶつ

おばあちゃんのお念仏      いただきます、ありがとう

わすれずおおきくなっとくれ      いまも心にうかびくる

おばあちゃんの“子守歌”

3. なんまんだぶつ、なんまんだぶつ

小さな子供と手をあわす      数えきれないひとたちに

願われ生まれたお前だよ      いまもたしかに聞こえる

しんらんさまの“子守歌”

<http://higashihonganji.or.jp/goenki/theme/song/>

# 廊下に響く“子守歌”(その1)

- 今年度は、法然聖人の八百回忌法要、親鸞聖人の七百五十回遠忌法要がお勤まりになりました。法然聖人は、親鸞聖人のお師匠様であり、四十歳お歳が離れてみらっしゃいましたが、法然聖人は八十歳でお浄土にお還りになり、親鸞聖人は九十歳でお浄土にお還りになりましたから、ご遠忌法要は、いつも同じ年にお勤まりになると言うわけです。
- 法然聖人と親鸞聖人がこの世にお出まし戴いたお蔭で、後世の私達がお念仏のみ教えによってお救いに与ることができたのです。何と有り難いことでしょう。
- 法然聖人のお父さんは、美作の国の押領使漆間時国というお方でしたが、明石定明の夜襲に会い深手を負い命を落として行かれたのであります。
- いまわの際に、お父さんは、勢至丸(法然聖人の幼名)に対しておっしゃいました。
- 「決して父の仇を討つではない。仇を討てばまたその子がお前の命を狙い、恨みは恨みを呼んで尽きる事が無いからである。お前は出家するように」とおっしゃったのですね。
- お父さんの遺言通り、比叡山に登り、智慧第一の法然房と称讃され、やがて浄土宗をお開き下さった法然聖人も偉かったのは当然ですが、お父さんが偉かったと思うのですね。
- 今日、世界中で、互いに紛争が絶えないのも、際限のない仇討に根拠があることを思います時、かつての日本人の中には、法然聖人のお父さんのようなお方がいらっしゃったということを私達は誇りにしなくてはなりませんね。

# 廊下に響く“子守歌” (その2)

- さて、ご遠忌の間に、いくつもの心の温まるお歌ができあがりしました。
- 浄土宗では、さだまさしの「いのちの理由」ができ、西本願寺では、アニメ親鸞様の主題歌、辛島美登里さんの「きっとまた会えるね」ができました。
- 辛島さんの歌は大変よいお歌ですが、長いんですね。あるとき、施設御法話でこれをご紹介しますというと、眼の前のお婆ちゃんが、「先生、自分だけで歌うてたんではいけませんで」とおっしゃったんです。(笑い)。
- 皆さん待てないんですね。
- 一方、今回、東本願寺では、歌詞を公募なさったところ、七百二十五もの応募作品が寄せられました。そこから四詞が選ばれ、作曲されて出来上がったのが「ご遠忌ソング」でした。
- その中から歌いやすい「なんまんだぶつの子守歌」を本日皆様とご一緒に歌いましょう。また、そのお心を頂戴しましょう。
- 歌詞は、長浜市のお寺の坊守様の作品ですので、滋賀県人にはゆかりの深いお歌であると言えます。ご紹介しましょう。
- 一番はお爺ちゃんの子守歌です。(なんまんだぶつの子守歌の一番を歌います)
- みなさん、もうお歌い戴いて居ますよね。
- では皆さん、最初からご一緒に歌うことに致しましょう。

# 廊下に響く“子守歌”（その3）

- 一番はお爺ちゃんの子守歌、二番がお婆ちゃんの子守歌、三番が親鸞さまの子守歌です。子守歌というのは、お念仏そのものですね。
- はじめてなのに、皆さんお上手ですね。
- 歌の文句にある様に、この世に誕生した私達は、お爺ちゃん、お婆ちゃんのお念仏を子守歌としてお聞かせに与って来たのでした。
- そのお爺ちゃん、お婆ちゃんは、法然聖人、親鸞聖人のお念仏のみ教えによってお育てに与ってこられたのでした。
- 法然聖人は、次のようにおっしゃいました。私は、私の心の善悪、自分が犯して来た罪の軽重におののくことはありません。
- 如来様が「お浄土に生れて来るんだよ」と願うて居て下さるのですから、「如来様の仰せの通りにお浄土に生まれたいと思うて、南無阿弥陀仏と称えさして戴きます。
- すると「なんまんだぶつ」と聞こえて下さいますから聞こえて下さったその声によって、浄土往生間違いなしと頂戴すればよいんだよ」とお教え下さったことでもあります。
- 親鸞聖人は、次のようにおっしゃいました。法然聖人のみ教えの本質は、如来様の本願力廻向のみ教えです。如来様は、間違いなくお名号を聞かしめる為に、実はお名号を称える行為そのものを私に回向して下さるのでした。
- お念仏自体が、如来様の回向によるのです。

# 廊下に響く“子守歌”（その4）

- ですから御一緒にお念仏を称えましょう。
- 『なんまんだぶ、なんまんだぶ、…』
- なんまんだぶつと称えれば、なんまんだぶつと聞こえて下さいました。
- 「お爺ちゃん、聞こえて下さいましたよね」に
- 「うん」とお応え戴きます。聞こえて下さったなんまんだぶつは、たった今しがたお浄土を発して私の両の耳を揺るがせ、わが胸底に届いて下さった南無阿弥陀仏に他ありません。聞こえて下さった南無阿弥陀仏が阿弥陀如来そのお方に他ならないのですから、私の今生の命が終るとき間違いなく極楽浄土につれて行って下さるのです。
- ですから皆様どうぞご安心下さいませよ。
- それでは、最後に、もう一度、なんまんだぶつの子守歌をご一緒に歌いましょう。
- 「なんまんだぶつ なんまんだぶつ
- 小さな子供と手をあわす 数えきれないひとたちに 願われ生まれたお前だよ
- いまもたしかに聞こえる しんらんさまの“子守歌”」
- 御法話が終わりますと、皆さん拍手をなさいます。最近、違和感はなくなりましたが、「やはりお念仏ですよねえ」と廊下を辿りながら介護士さんに申したことでありました。
- 控室に戻りしますと、「子守歌、…子守歌、…」とお歌いになるお年寄りの歌声が廊下に響いてきたのでありました。合掌。

# 「アニメ親鸞さま」の主題歌(西本願寺)

by 辛島 美登里

1. えいえんをきざむほしで  
どんなにときがすぎても  
さくらふぶきの まうおかで  
ひだまりのさかみちで  
うれしいことかなしいこと  
どうしてる いまどこにいる  
あなたとのいちびょうが  
いるあせないのはなぜ  
あなたをおもいましょう  
たどったひびをふりかえれば  
はなびらのよにほほえむから  
きっとまたあえるね
2. きづついたとき、やっと  
やさしさにふれながら  
夕暮れもみじに染まるそら  
ひがおちて よるがきて  
はなれても とおくても  
だいじょうぶ あさはくるから  
みえてきたたくさんの  
旅を続けるのなら  
しあわせねがいきましょう  
ほしがあなたをてらすように  
そのあいはとどくよしんじて  
まぶしいひかりのなか
3. さくらふぶきの まうおかで  
だいすきな だいすきな  
いつまでも いつまでも  
ちがうみち でもおなじそら  
どうしてる いまどこにいる  
あなたを おもいましょう  
なまえをよべばなつかしくて  
あなたはわたしをあたためる  
みんなひとりじゃない  
きっとまたあえるね

# のんのさま

1. のんのんのんの のんのさま (凡例:○は一拍あけます)

このこのいのち まもりゃんせ

このこのあした まもりゃんせ

このこのみらい まもりゃんせ

2. のんのんのんの のんのさま

このこのともだち まもりゃんせ

このこの地球 まもりゃんせ

このこのゆめを ○まもりゃんせ

3. ななつのうみに はしかけて

せかいをつなごう てをつなご

はしははしでも にじのはし

せかいのこどもが あそぶはし

<http://www.youtube.com/watch?v=MqrzdunRtmk&feature=endscreen&NR=1>



# 聲 名 (となえませ)

1. なもあみだぶつ なもあみだ (凡例:○は一拍あけます)

なもあみだぶと となえませ

なもあみだぶと たたえませ

なもあみだぶと きかしゃんせ

2. なもあみだぶつ なもあみだ

なもあみだぶと はかりませ

なもあみだぶと たのまんせ

なもあみだぶと ○めざめませ

3. ななつのうみに はしかけて

せかいにつなごう みだのはし

はしははしでも ろくじばし

みだのじょうどに わたるはし

Ref)2011/5/22 仏前讃歌 正覚寺新発意結婚式にて



## 聲 名 (となえませ)

- ・「聲」は、声と耳と「字画のトナエ」からなります。
- ・阿弥陀如来のご本願のお心に照らして文字の構造にお訪ねしますと、「聲」は、「南無阿弥陀仏のお名号を声に出だして口に称えせしめ、その耳に聞かしめずばおくまい」と、語り出して下さいます。
- ・衆生(私)の立場から頂戴しますと、「如来様の仰せの通りに、声に出だして口に称えれば、お名号がわが耳に聞こえて下さる」と頂戴できます。
- ・まことに「聲名」は、お名号が具体的に働いて下さる仏回向の口業のお手立てと窺わせて戴きました

(註)「如来様の仰せの通りに」というのが「帰命」であり「信心」なのです。

(Ref『教行証文類・証卷』(還相回向釈)引文によりて)

Ref)2011/6/22第47回龍谷教学研究会議研究発表主題

## 第2席(第2案)「唯除の御文」御法話構成

1. ご讃題(親鸞聖人の二つのお知らせ)  
「唯除のお知らせの御文」(銘文)
2. メイン構成
  - 1月第3号「唯のお心\_ここに救いの鍵がある」……………20分  
(お同行のお求めによりて)
    - a) 悪人正機、
    - b) 宗祖/お同行の三哉、
    - c) 二度のお知らせ、
    - d) 声について決定往生のおもひをなすべし a) ~ d) ……20分
    - e) いまいのちにめざめるとき(1~3番まで)……………7分
3. ご讃題まとめ  
(節談)「唯除のお知らせ章」 りびんぐらいぶず2月第1号…5分

# ご讚題：『銘文』二度のお知らせ

- 「唯除五逆誹謗正法(ゆいじょごぎゃくひほうしょうぼう)」といふは、「唯除」といふはただ除くといふことばなり、五逆のつみびとをきらひ、誹謗(ひほう)のおもきとがをしらせんとなり。このふたつの罪のおもきことをしめして、十方一切の衆生みなもれず往生すべしとしらせんとなり。
- (Ref 『尊号真像銘文』註釈版聖典P644)。

# 欧州での浄土真宗のお同行誕生の背景

- 戦後のヨーロッパでの浄土真宗のお同行が自然発生的に誕生せられた背景をお聞かせ戴いたことでした。
- キリスト教では、悪を廃し善を行えないでは神の救いに与ることができません。ところが、善を行うということは、人前はともかく、真摯な者は、疲れ果てることになります。
- そのようなキリスト教徒の方々にとって、歎異抄第三条の「善人なほもって往生をとぐ、いはんや悪人をや」との出遇いが浄土真宗のお同行誕生の背景だったのです。

# ご本願のどこに由来するのか

- では、このようなお心はご本願のどこに由来するのでしょうか。
- 第十八願文に基づく広く十方世界の衆生が与る弘願のお救いは、阿弥陀如来から本願力廻向される行信(お念仏と信心)の救いであり、弘願の御文には、その主文に続いて、唯除の御文が誓われています。
- そのお心は、曇鸞大師や善導大師が縷々お説き下さった御文に基づいて
- 「未だ罪を犯していない者に対して(未造業)は、抑止門で「罪を犯すでない」とおさとし下さり、
- 既に罪を犯した者(已造業)には、摂取門で「救わずはおかない」とお誓い下さったお心である」と窺わせて戴いております。
- でも、それだけだと非常に平面的なみ教えになってしまいます。

# 宗祖の三哉とお同行の三哉と

- 実は、如来様から本願力廻向された行(お念仏)と信心のみ教えは、もっと躍動的な構造から仕上がっているようです。
- なぜなら、如来様の智慧の光明に照らし出されてみると言う、はじめて私自身のお粗末な姿が明るみにでてくるからです。
- ですので、浄土真宗の信心の構造は、法の深信と機(私のこと)の深信の二種深信(にしゅじんしん)よりなると言われるのです。
- ここから、宗祖の三哉( 誠なるかな、 悲しきかな、 慶ばしいかな)(Ref総序と逆謗撰取釈)が生まれ、お同行の三哉( 有り難い、 お恥ずかしい、 勿体ない)が誕生したことはよく知られています。
- このうち、「悲しきかな、お恥ずかしい」が、如来様の光明に照らし出された私自身の姿を深く顧みる機の深信のお言葉であります。
- そのような私を、如来様は決してお捨てにならないでその懐におさめとって下さる(撰取不捨の利益)ことから「慶ばしいかな、勿体ない」という言葉となったのでした。
- 親鸞聖人のみ教えの素晴らしいところは、宗祖の三哉が単に宗祖お一人に留まるのではなく、具体的にお同行が如来様のお救いに与って行かれ、お同行の三哉となったところにあります。

# 「唯」のお心、ここに救いの鍵がある

- 唯除のご文の「唯」には、このような構造的な働きが秘められていることから、ご讃題に掲げた通りの、宗祖の二度に亘っての「知らせんとなり」となったものと窺えます。
- 「唯」の御文によって、「除く」という表向きの意味がすっかり正反対の展開を遂げ、「除く」というのは「**その者をこそ救う**（摂取する）」というお心だと言われるのです。
- それどころかもっと進めて、「十方世界の一切の衆生をお救い下さる弘願のお救いに、この私が具体的に与っていく秘密の鍵は、「唯除の御文」に秘められていると頂戴できます。

## こゑについて決定往生のおもひをなすべし

- ただ心の善悪をもかへりみず、罪の軽重をもわきまえず、心に往生せんとおもひて、口に南無阿弥陀仏となえば、こゑについて決定往生のおもひをなすべし。
- その決定によりて、すなはち往生の業はさだまる也
- (Ref法然聖人『往生大要抄』真宗聖教全書 P580)



# 衆生(私)は声に喚び覚まされる

- 一、ご讃題の法然聖人の『往生大要抄』の御文は、親鸞聖人の六字釈の原型になった御文であると平成二十一年九月十五日梯 實圓和上から承りました。和上様は「聞こえて下さる南無阿弥陀仏は、(往生は)大丈夫、大丈夫、と如来様がおっしゃっていらっしゃると頂戴するのだ」とおっしゃっています(Refすねいる「観経」資料)
- 「ただ心の善悪をもかへりみず、罪の軽重をもわきまえず」の一節は、第十八願文の唯除のご文に照らして、「私のような者がお救いに与れましょうか」と浄土真宗のお同行が最後に陥られる「疑い」を払拭する働きをされていて下さると窺われます。
- 「こゑ(声)につきて」とありますように、声がどんなに大事であることかを知ることができます。
- 名声超十方と重ねてお誓い下さり、「いかなる声名かましますと知るべし(還相回向釈)」で明らかにされているように仏回向の口業の威力がまざまざと知られることであります。

宗祖親鸞聖人750回御遠忌テーマソング(東本願寺)

## 今、いのちに目覚めるとき

1. 心が深く負う傷は、直ぐに癒えないけれど、  
その悲しみの淵から、私に呼びかけるものがある。  
**あなたはあなたでよいのだと**、気付いたときから生きられる。  
このかけがえのない私に、いのちが今、きらめく
2. どうにも押えられない、憎しみはあるけれど、  
震える思いの中から、私に問いかけるものがある。  
**あなた自身はどうなのかと**、問われたときから生きられる。  
このかけがえのない私に、いのちが今、ときめく
3. 辛い涙にくれる日は、決して尽きないけれど  
私が絶望しても、私を見捨てないものがある。  
**私を生かすはたらきに**、目覚めたときから生きられる。  
このかけがえのない私に、いのちが今かがやく、いのちが今かがやく  
<http://www.youtube.com/watch?feature=endscreen&NR=1&v=a4JpouxAGE>

# (節談) 唯除のお知らせ章

- 本願他力の第十八願の終りには唯除のお智しがございます。
- 唯除五逆誹謗正法というは、唯除というは、救わんということ、
- 大慈大悲の阿弥陀如来様のみ心は、邪見驕慢(じゃけんきょうまん)の私に、
- 五逆の罪は犯すでないぞよ、仏法誹るは罪の中でも尚罪深いことであるわいやーと、血の出るようなお智し、
- 十方の衆生を一人子の如く憐れみたまう弥陀様が、可愛いわが子を落とすぢやならん、救わにゃならんの思いより、
- 我身思い知れよと手に汗握りお智し下さるその一言が、「そんな悪人は救わんぞー」の唯除の御文の第一のお知らせでございます。
- 驚くべきか、驚くまいか、弥陀のお慈悲に包まれて、智慧の光に照らされて、思い知らるこの私は、哀しきまでの極悪人、
- Ref) 落語説教 『浜野矩随』その2  
「[http://www.youtube.com/watch?v=myOfellqYlQ&feature=Bfa&list=UL4X8b4uPjFlg&lf=mfu\\_in\\_order](http://www.youtube.com/watch?v=myOfellqYlQ&feature=Bfa&list=UL4X8b4uPjFlg&lf=mfu_in_order)

## (節談) 唯除のお知らせ章(続)

- されば、そんな悪人は救わんぞーのお心かと思いきや、弥陀にまかせる心より、他に助かる道なきわが身であるわいやーと、身に沁むまでに育て上げ、救いとらんと、手に汗握ってお知らせ下さるその一言が、
- 「そんな悪人をこそ救うぞよー」との唯除の御文の第二のお知らせでございます。
- 病院建てたるその目的は、病人見放すが目的ではない。病に苦しむ病人に薬を与え手当てをし病を知らせ医者任せに任せて養生させ、壱日も早い全快をさせてやりたいお慈悲なり。
- 本願建てたるその目的も、悪人見捨てるが目的ではない。邪見驕慢の私に、わが身の姿を知らしめて、弥陀招喚の勅命を、ひとへにたのまん身となして、この世も未来も大安心、
- 妙好人に希有人に、仏の子供に相應しい尊き人に育ててやりたいと言う、切ない切ない親心でございますぞよー。

- Ref) 落語説教 『浜野矩随』その2

「[http://www.youtube.com/watch?v=myOfellqYlQ&feature=Bfa&list=UL4X8b4uPjFlg&lf=mfu\\_in\\_order](http://www.youtube.com/watch?v=myOfellqYlQ&feature=Bfa&list=UL4X8b4uPjFlg&lf=mfu_in_order)